



# 複眼思考経営で、日本の知的財産や技術を守る

大正・昭和の大物政治家、高橋是清（初代専売特許局長）氏の命を受け、1891年に設立された、日本最初の特許事務所である浅村特許事務所。元号が令和に変わるタイミングで、5代目所長に就いた浅村昌弘氏に、長年お客さまに必要とされているポイントと、これからのビジョンを聞いた。

特許業務法人浅村特許事務所 所長

## 浅村昌弘氏

強みは130年間の蓄積

——浅村特許事務所の業務内容とは、どのようなものでしょうか？

**浅村所長** お客さまが新しい商品やサービス、デザインをつくったときに、それらを権利としてどうやって保護していくか、という支援をするのが主な仕事になります。

特許を取ってれば、商品・サービスの模倣を防ぐことができます。

出願件数は特許が最も多く、次いで商標です。国内だけでなく外国でも特許を取ってれば、その国で模倣品が出た場合、すぐ押さえられます。デザインに対しては意匠権というものがあありますが、日本の場合、比較的少ないですね。

——それぞれの国ごとに、特許を取る必要があるのですか？

**浅村所長** そうですね。特許を取得していない国では、せっかくの発明も自由に使われてしまいます。また、各国の特許庁が特許にするかどうか判断するため、必ずしも日本で取得できたからといって外国でも取れるわけではありません。

——国内・国外両方の出願を得意としていると伺いました。

**浅村所長** はい。国内のお客さまが外国で特許や商標、意匠、権利を取得する支援と、外国のお客さまが日本での特許を取る支援の両方をやっています。  
私の曾祖父に当たる創業者浅村三郎は、日本企業が外国に進出するよ



うになれば、外国で権利に絡んだ事件が増えるだろうと考えて、設立当初から特に外国の特許出願に力を入れました。

すると外国の特許事務所や弁理士と自然と信頼関係を築くことになり、その人たちにクライアントから「日本でいい特許事務所がないか」と相談があったときに、当事務所に依頼が来るようになったのです。

長い年月をかけて世界各国の方々とは信頼関係を築いてきたおかげで、いまは国際案件が仕事のほとんどを占めています。

——130年続いている強みは、何でしょうか？

**浅村所長** 特許事務所という個人経営が多いのですが、当事務所は130年間、組織として続けてきたことが大きいかもしれません。国内外の幅広い業界のお客さまからご依頼いただけてきたため、成功や失敗で蓄積した知識やノウハウ、経験の量が他事務所より大きく、どのような案件にも対応できてきたことが強

みかと思えます。

また、どこか大手に依存するという形ではなく、当事務所を信頼してくれているお客さまが

外国を含めてたくさんいるため、安定につながっています。

——お客さまの信頼を得るポイントがありますか？

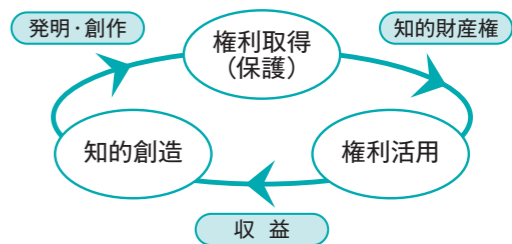
**浅村所長** 「浅村宣言」というものを打ち出していて、サービスがご満足いただけているか常にお客さま目線で考えることを徹底しています。

それから、当然ですが当事務所の弁理士の仕事の質が高い点が信頼につながっていると思います。

——弁理士の採用は、どのように行っているのですか？

**浅村所長** 採用はいま悩みどころで……。というのは、弁理士試験の合格人数が年々減っており、一時は800人いましたが、いま300人くらいです。試験の合格祝賀会にリクルートに行ったり、最近ではエージェントに頼るケースを増やしています

#### ●知的創造サイクル



日本には「知財立国になる」という国家戦略があり、そのため知的創造サイクルが重要だと言われている。発明や新サービスをつくり（知的創造）、その発明などの権利や特許、商標権を取得し（権利取得）、取得した権利を活用して事業を行い、収益を上げる（権利活用）。そして、得た収益で新たな知的創造に投資する。このサイクルの活性化が日本の技術の進歩、また、経済の発展につながる。

が、採用に結びつけるのはなかなか難しいですね。SNSを活用したダイレクトリクルーティングも、試し始めています。

一方で定着率は高く、その要因の一つに、さまざまなバックグラウンドを持つベテランの弁理士が交代で指導につくOJTの実施があります。OJTのなかで、自身にあったプロとしてのやり方が見つかります。

また一人前になったらすぐ案件を任せられることもやりがいを生んで、定着につながっているのではないで

しょうゆ瓶を立体商標として商標権を取りました。立体の形状で商標を取得するのは、とても難しいんですよ。

#### 多様性のあるチームで課題を解決

——弁護士事務所を併設していますが、所長は弁理士と弁護士、両方されているのでしょうか？

**浅村所長** 大まかにいうと、私は、弁理士はプレイヤーとしてやっていて、特許事務所は経営をメインという感じです。ただ、仕事を共同で受任するケースも多いです。

——仕事での喜びはどんなところにありますか？

**浅村所長** さまざまなお客さまの新しい技術や商品、サービスに触れるので、知的好奇心が満たされるところが、本当に楽しいですね。

また、当事務所の弁理士は年齢も強みや特性もバラバラなので、そういった多様性のあるチームを組んで

#### 浅村宣言

浅村特許事務所は、全世界の知的財産制度の発展に貢献します。浅村特許事務所は、日本最長の歴史と伝統を有する事務所として、永年培ってきた知識や経験を生かしたサービスを行ないます。浅村特許事務所は、お客様のご要望を的確に把握し、お客様の立場で業務を行い、お客様に最高のご満足を提供します。

#### 常にお客さま目線で考えることを徹底しています



#### ●キッコーマン しょうゆ卓上びん



1961年当時の卓上びん

1964年の広告

現在の卓上びん

お客さまの課題を解決に導くお手伝いをするのもすごく面白い。

——所長は40代半ばですから、これから20年、30年と経営に携わるわけですが、変化の激しい時代を駆け抜けていくビジョンはありますか？

**浅村所長** 日本はますます少子高齢化が進み、多くの課題が出てくるの



初代専売特許局長 高橋是清氏（左）と浅村特許事務所初代所長 浅村三郎氏（右）（1934年撮影）。高橋是清氏の3度目の大蔵大臣の際に、大蔵大臣執務室で撮影した写真。





は間違いないでしょう。それらの課題を知的財産や技術で乗り越えていかない、日本の競争力はなくなってしまう。

特許や商標の仕事は、企業が技術を生かして日本の未来を切り拓くお手伝いをするのだと思っています。

今後は、特許や権利だけでなく、課題の解決に必要であれば、お客さまの経営をコンサルタントのような立場で支援したいと考えています。

そのために、知財コンサルティング部を設けて、顧問契約で定期的にご相談に乗ることもしています。また、この特許に値段を付けたらいくらになるかという知的財産の価値評価を新しいサービスとして始めました。

— 特許が売れるのですか？

**浅村所長** 売れます。ほかに、M & Aの評価に使えたり、特許を担保

にした融資を金融機関が行ったり、特許の使い道もいろいろあるのです。——最後に、浅村所長の経営を一言で言おう？

**浅村所長** 「複眼思考経営」です。まだ3年目ですが、常にさまざまな視点から自分を、そして事務所を見て、経営判断をしてきました。

### 企業が技術を生かして 日本の未来を切り拓く支援をする

弁理士や弁護士の立場でお客さまにアドバイスする場合も、たとえば紛争になっていけば相手方がどういうことを考えるか、また裁判所や行政がどう考えるか、と予測してアドバイスをします。経営も同じで、やはり従業員だったらどう思うか、お客さまだったらどう思うか、外部の専門家だったらどう思うか、と常に複眼で見て、最終的な意思決定をするようにしています。

今後複眼を複数持ち、本質を見抜く経営を続けていきます。

#### 特許業務法人 浅村特許事務所

【所在地】東京都品川区東品川2丁目2番24号天王洲セントラルタワー 【TEL】 03-5715-8651  
 【創業】1891年 【従業員数】103名(うち弁理士31名)(2021年1月1日現在) 【業務内容】知的財産(特許、実用新案、意匠、商標、不正競争防止法、著作権法等)に関する調査、国内出願等、知財コンサルティングサービス  
 きらぼし銀行 五反田支店会員